泉用水・雀谷川コース

潤いある泉用水「暮らしに息づく流れの歴史」

金沢の用水は、そのかいわいのまちなみに潤いと安らぎをあたえてくれます。泉用水もそのひとつです。用水や川沿いを歩きながら、まちなかにそっと隠れている自然を見つけてみましょう。

にし茶屋街 ➡ 泉用水 ➡ 泉八幡神社 ➡ 旧北国街道 ➡ 雀谷川 ➡ 寺町寺院群 ➡ 野町もも公園 ➡ 弥生さくら公園

●にし茶屋街

野町広小路から増泉方面に進みます。金沢の３つの茶屋街のひとつ、にし茶屋街には、今も紅殻格子の家並みが続く情緒ある通りがあります。西茶屋資料館は、小説「地上」で有名な島田清次郎が青年期を過ごした「吉米楼」跡に建てられ、茶屋家屋の外観を再現したものです。

クランクした小路を曲がると用水があらわれます。

にし茶屋街

●泉用水

泉用水は、藩政初期からある農業用水で、旧米丸村増泉、旧三馬村泉・西泉の田畑を潤していたと伝えられています。犀川下菊橋の下流から取水し、にし茶屋街かいわいでは、一橋ごとにデザインの違う市道橋が架けられています。

用水沿いに進み、保育専門学園を過ぎて、左手の細い小路に入ります。

●泉八幡神社のイチョウ

イチョウは、火災時に水を吹くといわれ、神社、仏閣に植えるところが多く、この泉八幡神社の境内でも９本のイチョウがあり、大木特有の「ちち」という気根（地上部から空気中に出る植物の根）がみられます。黄葉時期は、境内が明るさを増したように感じられ、それが落葉すると黄金の絨毯を敷き詰めたように、晩秋ならではの自然の趣を創出しています。

●街道沿いを歩く

泉八幡神社前の通りは、かつての北国街道で、今も大小の古い町家が並び建ち、心を癒してくれる素朴さがあります。

念西寺は、俳人・加賀の千代女が５～７年あまり生活していたことで知られ、山門右手の千代尼塚が、歴史を偲ばせます。本堂内には珍しい井戸があり、千代尼の由緒にちなんで「朝顔の井戸」と呼ばれています。

遠くからでも樹林が眺められるのは、国造神社で大イチョウが印象的です。境内に泉用水が流れ込み、長閑な雰囲気を漂わせています。

●雀谷川と雀橋

国造神社から南大通りを渡り、弥生のまちを横断します。通りのつきあたりから川音が聞こえてきます。

雀谷川は、長坂用水の分流のひとつで、伏見川へ合流します。このかいわいはまだ昔の面影をとどめており、峡谷にも似た風景の中を流れゆく清々しい水の姿に心和みます。

雀橋

雀谷川の旧鶴来往還に架かる橋は雀橋と呼ばれています。今から100年以上前に造られ、市内では珍しい赤煉瓦（あかれんが）を積み重ねた、アーチ型の小さな橋です。

●寺院群の花緑

通りを野町方面、寺町寺院群へと歩を進めます。

「椿の寺」としても知られている林幽寺には、ツバキの名花「雛侘助（ひなわびすけ）、雛鶴（ひなづる）」の原木が大切に保存されていて、11月頃には美しい花を咲かせます。

しばらく進むと、ひときわ目を惹く樹影があらわれます。開禅寺のモチノキです。モチノキは成長が遅く、病気になりやすいので、15mもの高さの大木はきわめて貴重です。

また、本覚寺の樹林は、本堂後にあるタブノキの大木が見事で、大地を掴むように大きく根張りする姿は力強さを感じます。

龍渕寺の境内は、深緑で遮光され、一瞬、まちなかにいることを忘れさせてくれるような、落ち着いた雰囲気をあたえてくれます。590本以上のスギ、アカマツ、ケヤキ、カシなどが静閑な佇まいを導き出しています。

●公園を巡って

開禅寺のモチノキを土塀越しにみながら、野町もも公園へ向かいます。

野町もも公園は、平成16年に市民提案型公園として誕生しました。サザンカ、ハナモモ、ハナミズキなどがみられます。

弥生さくら公園は、旧金沢気象台跡地で、サクラの開花宣言標準木であった名木「ソメイヨシノ」やシダレザクラ、ヒガンザクラなどがみられます。

四季折々に、公園の花緑を楽しんでみませんか。

弥生さくら公園